

T 日程・英語外部試験利用入試 1 限

科 目	ページ
数 学 ①	2～13
数 学 ②	14～51
地 理	52～64
国 語	91～66

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 志望学部・学科によって選択する科目・試験時間が決まっているので注意すること。

志望学部(学科)	受験科目	試験時間
下記以外の学部(学科)	数学①または国語	60分
文学部(日本文)	国 語	90分
文学部(地理)	地 理	60分
情報科学部(コンピュータ科・デジタルメディア)	数学②	90分
デザイン工学部 (建築・都市環境デザイン工・システムデザイン)		
理工学部 (機械工〔機械工学専修〕・電気電子工・応用情報工・ 経営システム工・創生科)		
生命科学部 (生命機能・環境応用化・応用植物科)		

4. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
5. **数学②・国語**については、志望学部・学科によって解答する問題番号が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。
6. **数学①②**については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
7. マークシート解答方法については、問題冊子を裏返して裏表紙の注意事項を読みなさい。ただし、問題冊子を開かないこと。
8. 問題冊子のページを切り離さないこと。

マークシート解答方法についての注意 (共通事項)

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

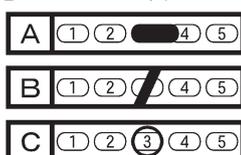
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

「数学②」(情報科学部・デザイン工学部・理工学部・生命科学部)

マークシート解答上の注意

「数学②(情報科学部・デザイン工学部・理工学部・生命科学部)」は「数学①(それ以外の学部)」と異なる科目です。

問題中の ア, イ, ウ, … のそれぞれには、特に指示がないかぎり、- (マイナスの符号), または0~9までの数が1つずつ入る。当てはまるものを選び、マークシートの解答用紙の対応する欄にマークして解答しなさい。

ただし、分数の形で解答が求められているときには、符号は分子に付け、分母・分子をできる限り約分して解答しなさい。

また、根号を含む形で解答が求められているときには、根号の中に現れる自然数が最小となる形で解答しなさい。

〔例〕 $\frac{\boxed{\text{ア}} \sqrt{\boxed{\text{イ}}}}{\boxed{\text{ウエ}}}$ に $\frac{-\sqrt{3}}{14}$ と答えたいときには、以下のようにマークしなさい。

ア	●	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イ	⊖	0	1	2	●	4	5	6	7	8	9
ウ	⊖	0	●	2	3	4	5	6	7	8	9
エ	⊖	0	1	2	3	●	5	6	7	8	9

※ 「数学①」の選択肢には- (マイナスの符号) はありません。

(国)

(語)

●法学部・文学部(哲・英文・史・心理学科)・経済学部・社会学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・現代福祉学部・キヤリアデザイン学部・GIS(グローバル教養学部)・スポーツ健康学部のいずれかを志望する受験者は、問題(一)(二)(三)(四)(五)に解答せよ。

●文学部日本文学科を志望する受験者は、問題(二)(三)(四)(五)に解答せよ。

(一) つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの各文の傍線を付した言葉に最も意味が近いものを後の選択肢の中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

1 真摯な態度に感服する。

- ア 謙讓 イ 公平 ウ 真面目 エ 真義 オ 広量

2 政党内の不正に対して閣僚が遺憾の意を表した。

- ア 憤る気持ち イ 残念な気持ち ウ 申し訳ない気持ち
エ 辛い気持ち オ 面映ゆい気持ち

問二 つぎのうち、熟語の構成が異なるものを一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 漏洩 イ 困惑 ウ 衆寡 エ 脆弱 オ 蒙昧

問三 つぎの各文の空欄に入る語を、後の選択肢の中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

1 戦場での運命は一蓮^{れん}□生だ。

ア 拓 イ 宅 ウ 托 エ 扱 オ 沢

2 リサイクル事業に先□をつけた企業。

ア 蹤^{しやう} イ 鞭^{べん} ウ 見 エ 駆 オ 験

3 人間万事塞翁が□、悪いことがあれば良いこともある。

ア 鳥 イ 時 ウ 空 エ 馬 オ 運

4 A教授は博覧□記の人として知られている。

ア 教 イ 競 ウ 共 エ 興 オ 強

〔二〕 つぎの文章は毛内拓の『頭がいい』とはどういうことか——脳科学から考える』の第6章「感受性と創造性」の一節である。これを読んで、後の問いに答えよ。

「アーティスト」には、いわゆるアート作品を生み出す芸術家だけでなく、作品を表現する演奏家や歌手、さらに身体を使って表現するダンサーやアスリートも入ります。彼らは、前章で述べたように、粘り強い反復練習を積み重ねているため、自分の身体を思い通りに操ることが出来ます。自分の身体の変化に対する認知が高い人たちです。

さらに彼らが共通して行っているのは、自らの「知恵ブクロ記憶」を外在化することであり、その点では、作家や研究者、芸人や司会者なども一種のアーティストと言えます。

おさらいになりますが、私たちは目に映るもの、耳に入るもの全てを知覚しているわけではありません。各末梢器官まつしやうを通して入ってきた五感情報は、嗅覚を除いて、視床と呼ばれる脳部位に存在すると考えられている「感覚ゲート機構」によって取捨選択を受けます。本書ではこれを、脳の（第一のフィルター）、感覚フィルターと呼んできました。そこで、より変化が大きく注意を払うべき情報だけが選択され、大脳皮質に運ばれて知覚されます。そのため、目は開いているけど見えていない、聴覚は正常だけど聞こえないという状況が発生します。

例えば、飛行機や新幹線でのノイズ音やキツa茶店での他の人の話し声などは、だんだん気にならなくなります。ファミレスなどでは、BGMを流すことでさらに他の人の話し声に注意が向かなくなります。脳は、より変化の大きなものに注意を向ける性質があるので、人の話し声よりも音楽のように変化の大きなものに注意を奪われて、話し声が耳に入らなくなると考えられます。

空調をつけると、時計の秒針の音が小さくなったと感じたことがあると思いますが、これはマスキング効果と呼ばれており、似たような周波数の音があると聞き取りづらくなるのです。トイレで川のせせらぎの音を流す装置があったりしますが、これもこの性質を利用したものです。

逆に、ガヤガヤして何も聞こえないような賑やかなパーティー会場でも、自分の名前が呼ばれたり、耳寄りの情報があつたりすると、その話がピンポイントで耳に入ってきます。

かつて、海外で開催される学会でポスター発表をする機会がありました。会場には研究者がごった返していて、思い思いに質問をしたり会話を楽しんだりしています。ガヤガヤして声が聞き取りにくい中、私は英語での質疑応答や会話に必死でしたが、日本語が聞こえてくるとついそちらに耳を取られてしまつて、集中力が途切れたという経験をしたことがあります。

これは前にも述べた通り私の考えですが、目や耳や舌、皮膚などの感覚器それ自体にはそこまで**ケン**著な「性能の良し悪し」があるとは思えません。これら感覚器には、それぞれ受容体があり、その密度や分布に差異があるのは確かです。特に、網膜上でRGB(赤・緑・青の三原色)の特定の周波数の光を受容する色素細胞は個人差が大きく、人によっては持っている人もいます。いわゆる色覚異常と呼ばれる状態ですが、性能の良し悪しとは異なります。また、舌の味覚を処理する細胞は二週間で入れ替わると言われていますので、実際に肥えているのは舌ではなく、舌の情報を処理する神経、または脳だと言うことができます。

同様に、脳の(第一のフィルター)(感覚フィルター)の基礎的な部分は生まれつき備わっているその人の特性であり、そこに良し悪しはありません。人によっては、多くの人が何気なく取捨選択して知覚せずに処理しているものを知覚できるということもありえます。例えば、指揮者は、何十人というオーケストラ全体のハーモニーはもちろん、同時にその中からフルートの音だけ、トランペットの音だけを聞ける特性を持っています。

この感覚フィルターの特性こそが感受性であり、センスであり、人によって大きく異なる部分なのではないかと思つています。HSP(ハイリー・センシティブ・パーソン)いわゆる「**繊細さん**¹」が一時注目を集めました。同じ感覚刺激でも人よりそれを強く感じたり、敏感に感じたりする人があるのは、ごく当たり前のことです。みんなが同じように感じるはずだという前提のもとに設計されていた社会の方に問題があり、敏感な人たちに無理や綻びが表出したのです。夏にオフィスの冷房を何度にするかという問題は、一律にしては解決されません。当然ですが、これらは気合でどうにかなる類のものではありません。

ただ、前章でも見た通り、非意識的に処理しようとしてしまう感覚フィルターをこじ開けて、注意を向けることで、ファミレスで隣の席の人の会話を耳を傾けたり、樹木の葉っぱの色一つひとつに注目したりすることも決して不可能ではありません。多分誰にでもそのポテンシャルはあると思いますし、トレーニングによって身につけることもできます。しかし、例えば私がそれをやろうとすると特段の注意とエネルギーが必要ですが、天才的なアーティストたちは生まれながらに、特に意識せずともできてしまう特性を持っている、あるいはそんな訓練を絶えず行ってきたということなのかもしれません。

ここからは、アートを理解する脳の働きについて考えてみたいと思います。アートの理解には、創造する立場、鑑賞する立場の両方があると思いますが、その双方でアートを理解するとはどういうことなのかを、脳科学の観点から見ていきましょう。ここで第2章で少し説明した²ストレス応答について、もう一度おさらいしましょう。ストレス応答ということとネガティブに聞こえますが、いつも心に留めておいてほしいのは、脳にとっては何も刺激がなく平穩無事が第一だということです。これは、細胞が持っているホメオスタシス(恒常性)という性質であり、脳内環境を一定に保つためであれば、脳は進んで変化を受け入れます。脳が持つ可塑性も、元をただせば外界からの変化に適応するために生じるものであり、「変わり続けることが、変わらないこと」なのです。

したがって、いったん脳に何か刺激が入り脳内環境に変化が生じたら、全力で元に戻そうとします。その過程で、電気的な応答が起きてシナプス伝達も生じるのです。^{*}もし、現状で対処しきれなければ、シナプス伝達の効率を上昇させ、あるいは必要なシナプス伝達は弱めて、より効率的に現状維持を成し遂げられるように脳の回路そのものを変化させます。

脳で感知する刺激は、ほとんどが非意識的に処理され、環境を一定に保つための工夫として、結果的に心拍の上昇や冷や汗が出たり、各種のホルモンを放出したりするなどの生理的な反応で対処されます。この身体的な変化を脳で感知し、それが脳の(第一のフィルター)を通過して知覚に上ると情動として処理され、快や不快、恐怖や嫌悪などを覚えます。さらに、この情動を言語化して解釈したものが、私たちが通常呼んでいる³「感情」の正体であると私は理解しています。

この解釈という過程には、個々人の経験に基づく「知恵ブクロ記憶」が重要であり、私たちはこれに基づいて「世界はこんな

ものだろう」という脳内モデルの予測を立て、実測値とのエラーを観測しています。

何かを見て「かわいい」と思うと、それはまずストレス応答として処理され、情動として発露します。胸がキュンとなる、の「キュン」の部分です。次に私たちはこの「キュン」を経験に照らして解釈した結果、感覚的にかわいさを理解するのです。

子ネコや子イヌに限らず、何かの子供を見ると「かわいい」という気持ちになる人は多いと思いますが、これはあらゆる動物が共通して持つ生理反応です。それを言語化して「かわいい」と感じるはおそらくヒトだけでしょうが、子供を見た時に生じる身体的な変化は、動物も人間も共通しているのではないのでしょうか。何億年という生命の進化の中で、保存され続けている普遍的な反応です。快や不快、恐怖や嫌悪などの根源的な情動は、本質的なストレス応答の結果生じるものであり、普遍的であると言えます。

アートは、この普遍的な情動反応を引き起こすものであり、それゆえに人の心を惹きつけて止まないのです。脳はできれば平穩無事でいたいのですが、一方で新しい刺激が好きという性質もあり、アンビバレントです。アートという行為は、生命の存在の第一義である「できれば変化したくない」という基本原理とは矛盾するものです。祖先から引き継いできたルール上変換しないようにプログラムされているけれど、でも本当はもっと自由に変化したいんだという内なる脳の声が聞いているような気がしてきます。

創作とは自分と向き合う作業に他なりません。それが、具象画にせよ抽象画にせよ、私たちは作品を通してアーティストの脳の中、特にその人がどのように世界を理解しているかという「知恵ブクロ記憶」を見せてもらっているのです。

抽象画や現代アートは難解で見方がわからない、そもそも何がいいのか理解できないという人もいます。私もそう思っていました。実は、風景や人物などの具象画と、抽象画を鑑賞する時に使っている脳の部位が異なることが知られていません。

具象的な作品を鑑賞している際には、物を見る際に働く視覚野と呼ばれる脳の後頭部に存在する領域が主に活性化する一方、抽象的な作品の場合は、視覚野だけでなく、脳の前頭葉や情動に関する領域が活発に働いていると言います。これらの脳領域

は、計画や推論、思考や認知に参与する部位で、記憶や意識とも密接に関わっており、自分がやった過去の体験の反省や、将来の計画に参与しています。つまり、具象的な作品を鑑賞している時は、実際に風景や人物として「見て」いますが、抽象的な作品を鑑賞している時は、作品を通して自分の内側を見ていると言うことができます。

私自身、抽象画がわからなかったのは、目で見て理解しようとしていたからなのかも知りません。抽象画は、それを見た時に生じる自分の中での変化を楽しむものだと思いついてから、アートの楽しみ方や存在意義がもっと明確になりました。

アートの楽しみ方にも、いくつかあると思います。偶然見かけたアート作品でもお気に入りのアーティストの作品でも、うまく言語化できないけどなんとなくかわいいと思った、心を打たれたという情動的な楽しみ方も一つです。逆に、その良さをできるだけ言語化して頭で理解しながら鑑賞するのも一つの手です。作り手の人生^{カ...}や私生活、それが作られた時代背景や社会情勢まで含めて知るとまた作品の見方が変わってくるものです。もちろん、そういう知識は頭に入れたくない、純粋に楽しみたいというのも、ありだと思います。要するに、人それぞれ自由です。

(毛内括「頭がいい」とはどういうことか——脳科学から考える」より)

【注】 *シナプス伝達 ある神経細胞から次の神経細胞へと情報が伝えられること。

問一 破線部 a「キッ」b「ケン」c「カン」の漢字表記について、傍線部に同じ漢字があてはまるものをつぎの中からそれぞれ一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- a ア 犯した罪についてキツ問する。
- イ 少子化対策はキツ緊の課題だ。
- ウ 彼はキツ粹の江戸っ子だ。
- エ キツ報を受ける。
- b ア 事実をケン証する。
- イ 実ケンによって確かめる。
- ウ 神が地上にケン現する。
- エ ケン案の事項について話し合う。
- c ア 客人をカン待する。
- イ 知り合いの出る舞台をカン劇する。
- ウ 実情をカン案して法を整備する。
- エ 料理のおいしさにカン嘆する。

問二 傍線部1「繊細さん」に対する筆者の考えとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 「繊細さん」は、感受性が人より豊かにかつ敏感であり、その特性やセンスを社会はもつと評価するべきである。
- イ 「繊細さん」は、刺激に過剰に敏感な人たちであり、周囲との衝突を避けるために自ら配慮する必要がある。
- ウ 「繊細さん」は、ごく当たり前に誰もが持つ感覚を有した人間であり、それを問題視する社会の方がおかしい。
- エ 「繊細さん」は、社会の無理や綻びを一身に受ける存在であり、社会はそれを理解し、援助していくべきである。
- オ 「繊細さん」は、人は同じ感覚を持つものだとする社会が生んだ存在であり、問題とされるのは間違っている。

問三 傍線部2「ストレス応答」についての説明として、最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア ストレス応答とは、外界からの刺激に対して取捨選択的に反応することができる、感覚フィルターの特性である。
- イ ストレス応答とは、外界からの刺激によって喚起される、恐怖や嫌悪などの負の心情を引き起こす反応である。
- ウ ストレス応答とは、細胞の恒常性を保つために脳が行う、外界の変化に対する非意識的・生理的な反応である。
- エ ストレス応答とは、外界からの強い刺激をできるだけ避けようとする、誰にでも備わっている脳の機能である。
- オ ストレス応答とは、外界からの抑圧的な刺激によって心身にひずみを生じさせる、脳の避けられない反応である。

問四 傍線部3「感情」の正体とは、どのようなものか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 脳が持つ可塑性によって、外界からの刺激に適応しようとするときに知覚上に現れる、快や不快などの気持ち。
- イ 外からの刺激に対するストレス応答として処理された、「かわいい」などと思う気持ちが情動として発露したもの。
- ウ 外界からの刺激に対する生理的な反応を脳が知覚の上で情動として処理し、それを言葉として解釈したもの。
- エ 外からの刺激によって引き起こされた感覚が、経験に照らして認知された結果、恐怖や嫌悪などとなって現れるもの。
- オ 外界からの刺激によって引き起こされる生理的な反応を、言葉によって表そうとする時に感じられる普遍的な情動。

問五 筆者は、「具象画」と「抽象画」を鑑賞する際の違いについて、本文中でどのように述べているか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 具象画は主として私たちの感情に直接的に働きかけるが、抽象画は主に間接的に私たちの情動を揺り動かす。
- イ 具象画は描かれているものを単純に見ればよいが、抽象画は描かれていないものを想像して見る必要がある。
- ウ 具象画は世界に対する作者の理解の仕方を解釈するものだが、抽象画は作者の思考や体験などを感じ取るものである。
- エ 具象画を見るときは脳の視覚野が活性化するが、抽象画を見るときは脳の思考や認知などに関する部位も活発に動く。
- オ 具象画は実際の人物や風景を見るように鑑賞できるが、抽象画は作者に関する知識を学んでから鑑賞するべきである。

問六 本文の内容に合致するものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 作家や研究者、芸人や司会者などが一種のアーティストだと呼べるのは、彼らが粘り強い反復練習を積み重ねつつ、新しいものを創り出すからである。
- イ 脳の感覚フィルターは、自分の欲しい情報だけを自由に取捨選択することができるため、パーティナーなどで自分の名前を聞き分けることができる。
- ウ 人間の感覚器自体には性能の良し悪しがあるわけではないので、脳の感覚フィルターの特性が人によって違って、特定の能力に優劣は生じない。
- エ 人はそれぞれ感覚フィルターの特性を持っているが、自分に備わっている特性を引き出し、駆使することは一部の天才にしかできない。
- オ アートが人間を惹きつけるのは、脳が恒常性とは逆の性質も持っているからであり、それは根源的な情動を引き起こす反応と関わっている。

問七 波線部「知恵ブクロ記憶」とは、どのようなものか。本文全体の内容を踏まえ、三十字以上、四十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

(下書き用)

40

30

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

一般に、他人の自慢話ほど不愉快なものはない。あなたの周りにも一人か二人いるだろう、自分の成功や業績をフイ聴^aしてやまない人が。SNSを見渡せば、そこでは誇示競争のようなものがたえず繰り広げられている。日常的に自分をアピールする人、さりげなく贅沢ぜいたくを匂わせる人もいれば、写真を加工して「盛る」ことで実態以上に大きく見せる人もいる。ともあれ、現代社会には大なり小なりの誇示や自慢があふれている。

そもそも、人はどうして何かを自慢したがるのだろうか。おそらく承認欲求であるとか自信のなさの表れであるとか、様々な説明がなされているだろう。興味深く思えるのは、そうした承認に対するあくなき欲求が、誇示や自慢によってはならぬ解決されているように見えないことだ。まるで喉の渇きを癒やそうとして海水をがぶ飲みするように、誇示者はますます承認に飢えているように見える。

この欲求不満は、私たちの欲望¹の構造そのものに関係している。たとえば、欲望には模倣的な性格があること、つまり私たちの欲望には他者の存在が不可欠であることを説いたのはフランスの哲学者ルネ・ジラールであった。ジラールは、欲望の成立を「羨望の三角形」によって以下のように表現している。

われわれが観察した一切の欲望の中では、単に、対象と主体があるだけではなかった。第三の項、一度だけわたしが優越性を与えようと試みることができたように思う競争相手が存在していたのである。(……)主体は、競争者がそれを欲望するが故にその対象を欲望するのである。競争相手が何らかの対象を欲望することによって、主体に、望ましいものとしてその対象を指示するのである。(ルネ・ジラール『暴力と聖なるもの』)

ジラールによると、私たちの欲望は自発的なものではないし、対象にもとづいたものでもない。そうではなく、その対象を欲するもしくは所有する第三者の存在に欲望はもとづいている。つまり、隣人がそれを欲するからこそ、私もそれを欲するのである。ここでは嫉妬が欲望よりも先に来る点がポイントである。「つまり、他者にたいする羨望は(……)対象への欲望に先

行しまた規定しているのであり、欲望のあとを追っているのではないのである」(デュムシエル／デュピユイ『物の地獄』)。

ところでこの場面において、嫉妬者のまなざしの先には、自分の成功や富をこれみよがしに誇示する人(本章ではそのような人物を「誇示者」と呼ぶことにする)がいる。それでは、この羨望の三角形をこの誇示者の側から見るとどうなるだろうか。誇示者の欲望は、単に財をキョウ受^bするだけでは満足しない。むしろ財や優位性を他人に見せつけ、嫉妬されたときはじめて満たされるのだ。言い換えれば、欲望が満たされるためには対象だけではなく、それをほぞをかんで見つめる第三者が必要になるというわけだ。

(中略)

誇示の主要な舞台はいまやインターネットに移っている。とりわけSNSの爆発的な普及は誇示をめぐる風景を大きく一変させた。

ソーシャルメディアの登場は、私たちの振る舞いにどう影響しているだろうか。ここではアレクサンドラ・サミュエルの議論を見てみよう。それによると、第一に、ソーシャルメディア時代における「近接性(proximity)」の変化が指摘されている。一般に、私たちは身近なものほど親近感を抱きやすいが、ソーシャルメディアは、従来であれば知らずに済んだ他人の生活^{のそ}覗き見ることを可能にし、いまや私たちの視野に入る範囲は、事実上、無制限になった。

第二に、ソーシャルメディアは社会的障壁を無効にし、これが人々の比較を解き放つことになる。かつては自分と同じ階級、同族の範囲内に留まっていたが、会ったこともない、そしておそらく今後也會うことのない他人との絶え間ない比較が始まったのだ。「さまざまな階級が競争と互いの比較をはじめるのは、既成の秩序が解体しつつあり、人間のあいだの差異が曖昧になるときである」(デュムシエル／デュピユイ『物の地獄』)とは、まさに私たちの時代にこそ当てはまる。

そして最後に決定的なことに、かつて「持つ者」は「持たざる者」からの嫉妬を恐れ、富や成功を隠す傾向にあったが、ソーシャルメディアの時代にあつて人々は自身の幸福をもちや隠そうとはしない。それどころか、自身の幸福を過剰に繕い、実態以上に見せることすらある。「私たちは妬みを引き起こしかねないものを隠すという考え方をやめ、嫉妬されそうな経験や獲得

を褒め称えるようになった」(Alexandra Samuel, "What to Do When Social Media Inspires Envy")。これにより、自慢と嫉妬の弁証法は相乗的に加速するだろう。

こうして、「万人の万人に対する誇示状態」²ともいうべき事態が到来した。新年度のいつせいの着任・異動報告をはじめ、助成金や賞の獲得実績の状況、回転寿司チェーンでの人生を張った奇行まで、人々は休みなく誇示へと強制されている。何がこれほどまでに私たちを駆り立てているのか。

こうした誇示の状況は、精神分析理論家の立木康介が「私的領域が露出されてやまない時代」と表現したものと呼応している。立木によれば、現代とは、従来であれば秘すべきであった私的な事柄が公的に露出されるような時代にほかならない。

その象徴的なエピソードとして語られるのは、イタリアの首相であったシルヴィオ・ベルルスコーニとその妻ヴェロニカである。2009年の5月のある日曜日、メディアの紙面に「ヴェロニカの決意 さよならシルヴィオ」、さらに「ヴェロニカ、シルヴィオにさよなら 私は決めた、離婚を要求するわ」といった文字が躍ったのだ。これについて、立木は次のように言う。

もともとプライベートであるはずの決断が、もともとプライベートであるはずの段階で、あからさまに、無遠慮なまでに、不特定多数の耳目に押しつけられたのだ。いうなれば、ベルルスコーニ夫妻において、私的領域は秘められるべきものから露出すべきものへと変質したのである。(立木康介『露出せよ、と現代文明は言う』)

現代では、多かれ少なかれ、誰もが私的であったはずのものを公的空間に垂れ流している。これは個人の内面、いわば心についてもそうである。立木は人々が心の闇をさらす社会を無意識が衰退した社会と捉えるが、これもまた誇示の民主化³の一つの帰結と見ることができらるだろう。

私たちがたえず誇示へと駆り立てられるのはどういうわけなのか。これについては、チャールズ・テイラーが「真正さ」の問題として捉えたものからアプローチできる。テイラーは、近代における変化として「名誉」から「尊厳」への移行があったと指摘する。そもそも名誉とは、誰かには与えられ、誰かには与えられないことで価値を持つ財であろう(全員が受賞する賞に価値はない)。そのかぎりでは、名誉の観念は不平等な階層秩序を前提としている。

だが、そうした秩序はいまや崩壊し、代わりに尊厳の観念が現れた。これは普遍主義的で平等主義的なものであり、「この尊厳の観念が、民主主義社会と両立しうる唯一のものであるということ、また古い名譽ふかの観念がこれにとつて代わられるのが不可避であったということは明白である」(チャールズ・テイラー「承認をめぐる政治」『マルチカルチュラリズム』)。つまり、稀少きせうな財としての名譽を求める競争から、誰もが等しく尊厳をキヨウ受する時代へと移行したというわけだ。

こうした平等化のプロセスのさなかで、逆説的にも切実さを増すのが「真正さ」⁴にはかならない。ここで「真正さ」と呼ばれているものとは、たとえば以下のようなことだ。

人間として存在するうえで、私自身わがみのものである仕方というものが存在するのである。私は自らの人生を、他人の人生の模倣によつてではなく、こういう仕方かたで生きることことを求められるのである。(……)私自身に忠実であることは、わたし自身の独自性に忠実であることを意味する。この独自性は、私のみが明確な表現を与えることができ、発見できるものである。私がそれに明確な表現を与えるとき、私は自らを定義づけてもいるのである。私は真に私のものである潜在的能力を現実化しているのである。近代の真正さの理念、そして、通常この理念を含む自己達成や自己実現という目標の背後には、このような理解が存在するのである。

したがって「真正さ」とは、自分の人生に意味を与えてくれる

X のようなものだろう。以前であれば、私たちの

X は社会的階層に大きく規定されており、あえて問われることはなかった。しかし平等な尊厳の時代には、承認は自明なものではなく、自分の独自性がいつそう深刻な問題となる。こうした状況の変化が「承認をめぐる政治」の背景となっている。

さて、同じことが現代の誇示の氾濫についても言えるだろう。誇示者もまた、人々が等しく誇示するなかで、他人とは異なる真正さや独自性を求めてもがいている。しかし問題は、その欲望には決して真の満足が訪れないことである。「誇示の民主化」は万人が多かれ少なかれ誇示的に振る舞うことを可能にしたが、まさにそのことによつて誇示そのものの条件が壊れてしまった。自慢が賞賛や嫉妬を必要とするすれば、誇示の民主化のもとでその効用は著しく下がるだろう。まるで漂流する宇

宙船から独りむなしくシグナルを送り続けるように、いまや時宜をまるで得ない、宛先不明の誇示だけが繰り返されている。これがわれらの⁵誇示者の成れの果てなのである。

(山本圭『嫉妬論——民主社会に渦巻く情念を解剖する』より。文章を一部省略した)

【注】

*弁証法

対立や矛盾を越えて、新しい考え方に達する方法。

*誇示の民主化

筆者は、かつて有閑階級に限られていた贅沢品の消費やそれにとまなう誇示が、近代社会において大衆化し、誰もが行えるようになったと説明している。

問一 波線部 a「フイ聴」b「キョウ受」のカタカナ部分に使われる漢字の意味として正しいものをつぎの中からそれぞれ選び、

解答欄の記号をマークせよ。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|------|-------------------------|-------------------------|
| a | ア 吸う | イ 垂れる | ウ 酔う | エ 吹く | オ 炊く |
| b | ア 供える | イ 教える | ウ 経る | エ 矯 <small>た</small> める | オ 享 <small>う</small> ける |

問二 傍線部 1「欲望の構造」とはどのようなものか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 欲望は、自分より劣位にいる他者が所有している物を得ようとして生じるものである。
- イ 欲望は、ある対象の存在にもとづき、他人を出し抜こうとして成立するものである。
- ウ 欲望は、自分がないものを所有している第三者と競争することで発生するものである。
- エ 欲望は、あるものを所有している他者の嗜好に共感することで成り立つものである。
- オ 欲望は、ある対象を欲しがっている他者の存在に触発されて生じるものである。

問三 傍線部2「万人の万人に対する誇示状態」とあるが、筆者はどのような点を批判的にとらえているか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 自己アピールばかりで、他者とのコミュニケーションが成り立たない点。
- イ 自己を他者と比べることで承認欲求がエスカレートし、際限がない点。
- ウ 嫉妬心を煽る表現によって、多くの人から恨まれる可能性がある点。
- エ 自己主張の競争は過激化する一方であり、迷惑行為を助長している点。
- オ 一部の人が自分の情報を飾り立て、必要以上の賞賛を集めようとしている点。

問四 傍線部3「無意識が衰退した」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 個人の内面が可視化されることで、他者の感情を推し量らなくなるということ。
- イ 人のプライバシーに関わる事柄を、無自覚なまま他者と共有してしまうということ。
- ウ 他者の私的な心情や状況について、意識せずとも耳にせざるをえないということ。
- エ 秘密の感情を共有することで、自己と他人の境界があいまいになるということ。
- オ 秘められていた個人的な感情が、不特定の人々に向けて公開されているということ。

問五 傍線部4「逆説的にも切実さを増すのが「真正さ」にほかならない」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 階層秩序が崩壊したことによって、自分の名誉は自分で守らねばならないという強迫観念が発生したということ。
- イ 誰もが平等であると考えられ始めたために、自身が無二の存在であることを証明する欲求が刺激されたということ。
- ウ 特別に与えられる名誉を失ったことで、それを取り戻すために自分の価値を他人と競うようになったということ。
- エ 社会階層に対する価値観が変化したために、自己実現や表現の方法を多様化せねばならなくなったということ。
- オ 民主主義社会が成立したことで、以前とは異なり、卓越した能力を身につけることが必要になったということ。

問六 空欄

X

にあてはまる言葉として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア マジヨリテイ
- イ ステレオタイプ
- ウ アイデンティテイ
- エ ポテンシャル
- オ リアリテイ

問七 筆者は、傍線部⑤で「誇示者の成れの果て」と述べるが、それはどのような状態だといえるか。つぎの形式にしたがって、三十字以上、四十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

状態。

(下書き用)

状態。

問八 本文の内容に合致するものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア SNSの利用者は、他人の嫉妬やトラブルを回避するため、ありのままではない姿を演出する傾向がある。
- イ 社会階層の平等化が実現した民主主義社会においては、他者と競争せず己の独自性を確立できるようになった。
- ウ 人々のあくなき承認欲求は、様々なメディアを通して、私生活を多くの人にアピールすることで充足される。
- エ ソーシャルメディアは人々が目にする情報の制限をなくし、それにより従来の社会的な障壁もなくなった。
- オ 誰かに名誉を与えることは、人間関係を不平等にするおそれがあるため、全ての人が賞賛される社会が求められる。

●以下の問題〔四〕〔五〕は、文学部日本文学科を志望する受験者のみ解答せよ。

〔四〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本国には、延喜年中に、仁和寺に仁元内供といふものあり。一人の弟子あり。その名、分明ならず。かの沙門が檀那あり。粟田録事といふ。録事、一生涯の間、仏法を信ぜず。ただし、法華經を書写するところに行きあひて、心ならず硯の水を取りつぐ。録事、病をうけて死門に入りぬ。冥途の旅、心細くして、影より外にそへるものもなきに、一人の沙門来たりて語りていはく、「汝、在世の間、仏法の名字を知らざり。さだめて大地獄に落ちんか。願はくは、閻魔王の前にして、在生にいかなる善かあり」と問はん時、一乗妙法蓮華經を書写供養すべき願ありと答ふべし」と、細かに教へけり。嬉しさに、「いかなる人のかくは教へ給ふぞ」と問ひければ、「我はこれ、汝が書写のところに行きあひて、取りつぎし水をもて書かれ」と答へ給ひける。

録事、歡喜の涙を流して、閻魔王の前にて、この願のこと申すに、「願を果たすべし」とて、ゆるされて帰る道に、一人の僧にあひていはく、「冥途に来たる人、たやすく帰ることなし。汝、なにの因縁をもて帰り給ふぞ」と問ひければ、録事、沙門の教へけるさまを語るに、僧、喜びて去りぬ。すなはち、閻魔王の前にして、在生の善を問はる時、録事が教へにまかせて、法華經を書き、供養すべき願あるよしをいふ。閻王、録事がごとくに帰してけり。

録事、よみがへりて宿願とげんがために、市に出でて法華經の料紙を買ふに、冥途にてあひたりし僧、同じく料紙を買ふ。僧、録事に語りていはく、「汝が教へによりて、冥途の苦患まぬかれて、ふたたび人界に帰ることを得たり。我は河内国知識寺の住侶なり」とぞ教へ侍りける。

〔『宝物集』より〕

【注】

*延喜年中 「延喜」は醍醐天皇の代の年号。九〇一〜九二三年。

*仁元内供 伝未詳。「内供」は僧の職名。

*沙門 僧のこと。

*檀那 僧を支援する信者。

*粟田録事 伝未詳。「録事」は記録などを行う者の職名。

*法華経 妙法蓮華経とも。構成する章を「品」といい、二十八品から成る。

問一 空欄

X

Y

Z

には直接体験した過去の意味を表す助動詞が入る。それぞれ適切に活用させたかたちで、その語を解答欄に記せ。

問二 波線部A「さだめて」B「たやすく」C「に」の語の品詞として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号

をマークせよ。ただし、同じ記号をくり返し選んでもよい。

ア 動詞

イ 形容詞

ウ 形容動詞

エ 名詞

オ 副詞

カ 連体詞

キ 接続詞

ク 感動詞

ケ 助動詞

コ 助詞

問三 傍線部1「影ほかより外ほかにそへるものもなきに」とあるが、どのような状態を述べたものか。つぎの形式に従って、十字以内で解答欄に記せ。

状態。

問六 本文の内容に合致するものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 仁和寺の仁元内供の弟子であったにもかかわらず、粟田録事は仏教へ帰依することがなかった。
- イ 仏教への信仰心をもたなかった粟田録事だが、実は生前から法華経を書写したいという宿願をもっていた。
- ウ 粟田録事は河内国知識寺の僧の教えによって、冥途から生きて帰る方法を知ることができた。
- エ 粟田録事と河内国知識寺の僧は、ともに一人の沙門から閻魔大王を欺く方法を教わった。
- オ 冥途から生きて帰ってきた粟田録事は、冥途で出会った僧と市場でふたたび出会った。

問七 『宝物集』は平安時代末期に成立したと考えられる作品である。同じ時期に成立した作品をつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 古今和歌集
- イ 太平記
- ウ 徒然草
- エ 梁塵秘抄
- オ 雨月物語

〔五〕

つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ(設問の都合で返り点・送り仮名を省いた箇所がある)。

予讓者、晋人也。故嘗事范氏及中行氏、而無所

知名。去而事智伯。智伯甚尊寵之。及智伯伐趙襄

子、趙襄子与韓魏合謀滅智伯。滅智伯之後、而

三分其地。趙襄子最怨智伯、漆其頭以為飲器。

予讓遁逃山中曰、嗟乎、士為知己者死、女為說

己者容。今智伯知我。我必為報讎而死、以報智

伯、則吾魂魄不愧矣。乃變名姓為刑人、入宮塗廁、

中挟匕首、欲以刺襄子。襄子如廁、心動。執問塗

廁之刑人、則予讓。內持刀兵曰、欲為智伯報仇。左

右欲誅之。襄子曰、彼義人也。吾謹避之耳。且智伯

亡無後、而其臣欲為報仇。此^レ天下之賢人也。^ト卒^{ツヒニ}。驛^{ゆるシテ}。
 去^{ラシム}之^ヲ。

(『史記』より)

【注】

- * 予讓 春秋時代末期の晋の人。
- * 范氏 晋の六卿(六つの有力な家老の家柄)の一つ。
- * 中行氏 晋の六卿の一つ。
- * 智伯 晋の六卿の一つである智氏の当主。
- * 趙襄子 晋の六卿の一つである趙氏の当主。
- * 韓魏 韓氏と魏氏。ともに晋の六卿の一つ。
- * 後 子孫。
- * 刑人 受刑者。
- * 塗廁 便所の壁塗りをする。
- * 匕首 短剣。
- * 刀兵 武器。

問一 波線部 a「与」b「嗟乎」c「耳」の読み方を、送り仮名も含めてそれぞれひらがなで解答欄に記せ。なお、歴史的仮名遣いでも現代仮名遣いでもよい。

問二 傍線部1「乃変名姓為刑人」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 自分の命をつけ狙うかたきの目をくらすため。
- イ 政界の権力争いに巻き込まれるのを避けるため。
- ウ 殺そうとしている相手に近づくと機会を得るため。
- エ 主君の無念を晴らしていさぎよく罪を償うため。
- オ 人目を忍ぶ逃亡生活を続けることに疲れたため。

問三 傍線部2「襄子如廁、心動」の意味として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 趙襄子が便所にいるような気がしたので、焦った。
- イ 趙襄子は便所で予譲を見つけ、感心した。
- ウ 趙襄子が便所に来たので、心が躍った。
- エ 趙襄子は便所に向かうと、胸騒ぎがした。
- オ 趙襄子が便所にいたなら、気が動転したであろう。

問四 傍線部3「欲為智伯報仇」の書き下し文は「智伯の為に仇あだに報いんと欲す」であるが、これにしたがって、解答欄の文に返り点を付けよ。なお、送り仮名を付ける必要はない。

問五 傍線部4「且智伯亡無後、而其臣欲為報仇」を現代語訳し、解答欄に記せ。